

本セッションでは、湖沼底質中の有機物起源の解析、および水生植物の底質環境とかび臭物質産生放射菌の動態把握に関して、4編の発表が行われた。

底質中の有機物起源解析に関して、2編の発表があった。1-B-09-3では、伊豆沼における底質中有機物の堆積に及ぼす流動の影響とその起源に関する報告がなされた。底質中の炭素含有率は流速の増加に伴い減少し、さらに炭素含有率の高い場所では、陸上植物由来の有機物が多くを占めていることが示された。また1-B-09-4は、中国太湖における底泥中の植物性有機物起源に関する報告であった。この場所では、ラン藻類(シアノバクテリア)によるブルームが観察されているにも関わらず、底質中のラン藻類由来の有機物の占める割合については予想に反して低い結果となった。この原因として、土壌に堆積したラン藻類が生分解により速やかに消失したためか、もしくはラン藻類に用いるバイオマーカー脂肪酸の一部(18:2 $\omega$ 6, 18:3 $\omega$ 3)が陸上植物にも含まれており、ここではそれらを除いた指標で検討を行ったため、過小評価となった可能性が考えられた。脂肪酸組成に基づく有機物起源の解析、その定量的な評価に関しては不明な点も残るが、このような手法による検討はきわめて興味深く、発表された両研究のさらなる発展を期待したい。

1-B-10-1は、浮葉植物のアサザの生育地と非生育地の底質環境に関する報告であった。アサザ自生地に比べて、その生育が認められない、もしくはアサザを移植したにもかかわらず消失した場所では、底質の泥化と汚濁化が観察され、その一因として地先の消波施設の影響が指摘された。

1-B-10-2は、かび臭物質産生放射菌の動態に関する発表であった。底質環境の差異によって、放射菌の産生するかび臭物質が異なる可能性が報告されたが、底質のどのような違いによって、産生するかび臭物質が変化するのか、今後の研究の進展を期待したい。

(石巻専修大学・生物生産工学科 玉置 仁)